

教育実践コーチング研究会 会報

PEACS コミュニケーション

— Practical Education and Coaching Society —

No. 6, Aug. 2026

【目次】

1. 巻頭言 相談役からご挨拶
2. 【聴講者 募集中】PEACS 1周年記念
「クロスオーバー講演会」開催(9月3日)
3. 【活動報告】第3回グループコーチング開催
4. 【活動報告】第1回レクリエーション開催
5. 推薦図書
6. 事務局よりご連絡
7. 今後の活動予定



1. 巻頭言

コーチングの業務への利用可能性について

教育実践コーチング研究会(PEACS)
相談役 家柳 典行

私は、PEACS のコーチング活動に参加することで、日頃の業務遂行における気づきやヒントになることが得られることをコーチングワークショップで知りました。

毎回、テーマを決めて、意見交換をし、ワークショップメンバーの意見を否定することなく、自然に受け入れてコミュニケーションをする中で、その過程で自分以外の意見、方法、考え方、方向性などが共有でき、その結果から自身の活動に活かせるキーワードが見えてくことに気が付きました。

このキーワードは、コーチングセッションの結果、得られた気づきから容易に見える化でき、毎回、セッションの成果物となります。キーワードは、例えば、マネジメントシステムにも含まれる企業文化の要素を表すためのヒントにもなります。

マネジメントの父といわれたピーター・F・ドラッカーは企業文化が整っていなければ、どんな人材投資も無駄になる。多くの企業は、従業員が「何をするか」は決めているが、「どう働くべきか」という価値観や、ルールを整備しても、内部コミュニケーションや教育訓練方法が曖昧で、組織が決めたルールが組織として結束して運用されていない場合があると説明しています。現在ではその対策で、マネジメントシステムでもトップマネジメントのコミットメントに企業文化の醸成があげられるようになりました。コーチングは、まさに、このコミットメントのためにコミュニケーションを組織の各管理職が共有することで、必要なキーワードを見出すヒントを与え、活性化につなげるソフトツールになり得ると考えます。

また、内部監査・二者監査や第三者審査においても、インタビューの精度を向上させるヒントも提供すると感じています。

ぜひコーチングのスキルを自然に使いこなし、業務に活かすことができる経験を実感してほしいと思います。みなさんのご参加をお待ちしております。

2.【聴講者 募集中】PEACS 1 周年記念「クロスオーバー講演会」開催(9 月 3 日)

昨年 8 月 4 日に産声を上げた PEACS の発足 1 周年を記念して、全カテゴリーのメンバーが参加可能なクロスオーバー講演会を企画いたしました。

講演会後は交流会の場も設けます。ぜひご参加いただき、全員で PEACS 2 年目に向けて弾みをつけましょう！

右の QR コードからお申込みいただけます⇒

【申込フォーム(Google Form)】

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScl-4h4Ar-ngDuk-l-tEjvgwWhGJK5s1P09Q_zP10vSIJPbrw/viewform



【催事名】PEACS 1 周年記念 クロスオーバー講演会

【日時】2026 年 9 月 3 日(木)

講演会: 13 時 30 分～17 時(13 時 受付開始)

交流会: 17 時 30 分～(2 時間程度)

【参加費】3,000 円(非課税)

【会場】北とぴあ 701 会議室(〒114-8503 東京都北区王子 1-11-1)

※交流会の会場は調整中です。



【参加資格】なし(会員外も参加可) ※受講をきっかけに、PEACS への登録をご検討ください

【プログラム】総合司会: PEACS コアメンバー 西島 南美(日本中国料理協会 南東京支部)

13:30～13:35 開会のご挨拶 PEACS 会長 辻剛(日本エアポートデリカ株式会社)

13:35～14:35 【基調講演】食品安全文化と主体性を生み出す組織の関わり
PEACS 相談役 家柳典行(東京サラヤ株式会社)

14:35～14:45 休憩

14:45～15:10 【PEACS 会員報告】食品安全文化を多次元で捉える
—アンケート調査が示した組織改善のヒント
PEACS 副事務局長 鈴木康之(日本エアポートデリカ株式会社)

15:15～16:15 【特別講演】平成の食品安全行政 40 年を振り返る
—HACCP は事業者主体、自主管理の時代へ
NPO 食品保健科学情報交流協議会(食科協) 理事長 加地祥文
(元 厚生労働省 医薬食品局 食品安全部 監視安全課長)

16:20～16:55 パネルディスカッション

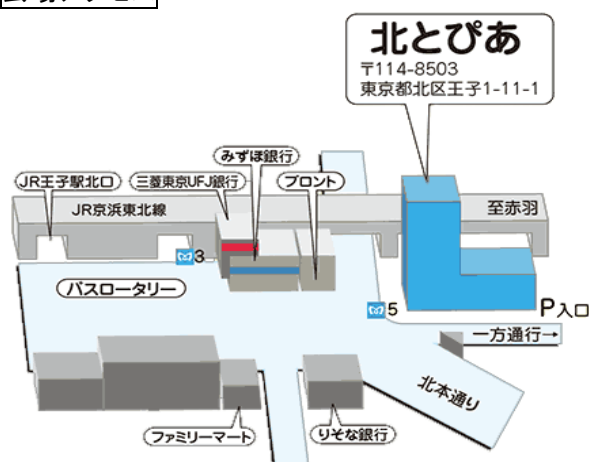
パネリスト : 演者および会場の皆さん

コーディネーター: PEACS コアメンバー 北村里依(銀座アスター食品株式会社)

16:55 閉会のご挨拶 PEACS 会長 辻剛(日本エアポートデリカ株式会社)

※17 時過ぎから王子駅周辺で交流会を予定しています

会場アクセス



東京メトロ南北線 王子 5番出口 直結
京浜東北線 王子 北口 徒歩 2分
都電荒川線 王子駅前 徒歩 5分



3. 【活動報告】2026 年 6 月 グループコーチングを開催しました

コアメンバーを対象とした第3回「グループコーチング」が2026年7月6日に開催されました。グループコーチングでは、年間を通して「食品安全文化構築と主体性のある組織づくり」をテーマに「対話」をしています。

第1回「志の共有と現状の棚卸し」、第2回『伝える』から『伝わる』教育へ』の議論を経て、今回は「監査およびコンサルティングの本質的な価値」を考察するべく、監査者および被監査者の双方の視点から「形式的な監査からの脱却」現場の自走をいかに支援するか」を議論しました。



ディスカッションの様子



山下征洋最高名誉顧問からのご助言も

オブザーバーとしての立場で参加した西條弘晃氏(PEACS コアメンバー)は、日々のコンサルティング業務の見地から、「伝える」と「伝わる」の違いについて、「伝えないから伝わらない」「『言った気』『伝わった気』の危うさがある」と指摘する。伝える側は「正しく伝われば相手は安心する。しかし、正しく伝わらなければ、不安を生み、不安が膨らめば不満になる」という認識を持たなければならない。その際に大事なことは「伝える側」と「伝えられる側」が、共通の知識や認識を持つことである。「相手の前提知識が違えば、同じ言葉でも意図は伝わらない」(西條氏)。

そして、伝え方も重要である。「正論だけでは人は動かさない」という経験は、誰もが持っているであろう。「納得」「腹落ち」がなければ、いくら正論であっても、相手には届かず、行動変容のきっかけにはなり得ない。相手を理詰めで追い込むと、(相手側が)心を閉ざしてしまう場合がある。「逃げ

道」を許容しながら、しかし「必ず伝えなければならないこと」は、確実に伝えなければならない。確実に伝える工夫の一つとして、すべての指示や伝達をベタ抑え的に伝えるのではなく、「必ずやってほしいこと」「できればやってほしいこと」「やると良いことがあること」といったように、傾斜、強弱をつけるという方策もある。

また、「いかに相手の聞く耳を引き出すか」「いかに相手に合わせてチューニングするか」も考慮する必要がある。教育の観点で言えば、現場教育では相手側のレベルに幅がある。(相手が)どの段階にあるか、教育レベルをどこまで求めるか、なども考慮する必要がある。

孔子の「論語」では、「子曰く、吾十有五にして学に志す、三十にして立つ、四十にして惑わず、五十にして天命を知る、六十にして耳順(したが)う、七十にして心の欲する所に従えども、矩(のり)を踰(こ)えず」とある。

人間という生き物は、60 歳にして、ようやく人の声を“自然に”聞ける境地に至るらしい。自由に振る舞って、社会規範や道徳を逸脱しないのは、70 歳にしてようやく、らしい。幅広い年齢層が働く現場で、全員に「的確に伝える」には、相応の技術が必要であることは間違いない。

教育とは、単に教えることではない。自ら気づくように、自発性を高めるように働きかけることであり、それが末端まで浸透し、実行され、成果としてあらわれるまで支援することが理想の一つである。とはいえ、「自分で考えて答えにたどり着けるよう導くのが理想」という理想だけを振りかざしては、今度は「(教える側が)言わなさ過ぎる」という状況に陥り、それは教える側と教わる側のお互いにとってストレスとなるし、それで事業のスピードや精度が落ちては元も子もなくなる。自分がコントロールできるのは、自分の思考と行動だけである。その思考と行動の幅を広げる教育ができれば望ましい。

余談になるが、HACCP や食品安全文化について説明する時、よく誤解されているのが、「性善説」とは「人の本性は善なので、悪行はしない」と意味ではないし、「性悪説」とは「人の本性は悪なので、目を離すと悪いことをする」という意味でもない。拡大解釈になるが、「性善説」とは「人の本性は善なので、教育によって善行をするようになる」、「性悪説」とは「人の本性は悪だが、教育によって善行をするようになる」といった意味合いで、実は結論は同じで「教育が大事」に集約される。

(文責:PEACS コアメンバー 立石亘)

● 次回の予定

次回、第 4 回グループコーチングは「不祥事・ミスを未然に防ぐ文化——心理的安全性と『言える化』」をテーマに、9 月 7 日(月)19 時～開催予定です。

グループコーチングは、原則、毎月第 1 月曜の 19 時から 1 時間ほど開催します。対話の後は交流会(1 時間程度)も予定しておりますので、ご興味のある方はご連絡ください。

答えがない時代、答え合わせをする前に、ニーズも変わっていきます。食品安全文化構築に向けて、PEACS では対話によって、皆さんの考え方を磨いています。

AI が進化する現在。情報やある意味での答えは、AI が出してくれますが、決断や判断、行動、部下に対する接する皆さんのプレゼンス——存在感や影響力は、AI はやってくれません。コーチングが機能するのもこの領域です。

ぜひ皆様も、コーチングセッションにご参加ください！

4. 【活動報告】第1回レクリエーションを開催

PEACS 初となるレクリエーション活動として、7月10日に東京・台場のダイバーシティ東京「都会の農園バーベキュー広場」を開催いたしました。今回が PEACS 初参加の方にもお越しいただき、夜のお台場は大いに盛り上がりました。

年末辺りに第2回レク企画があるかもしれません！ 皆様、是非ご参加ください！（皆様からのご提案も大歓迎です！）



5. 推薦図書

「人を動かす」デール・カーネギー（1936年）



人間関係の古典として、あらゆる自己啓発本の原点となった D・カーネギーの名著。常に机上において読み返す本として、重厚で華麗な装丁にあらため、四六判・上製（ハードカバー）とし、本文も読みやすく組み直した。本書は、社会人として持つべき心構えを興味深い実例をもって説得力豊かに説き明かして類書の追随を許さない。深い人間洞察とヒューマニズムを根底に据えた感動の書。聖書につぐ世界的ロングセラー。（紀伊国屋書店ウェブサイトより）

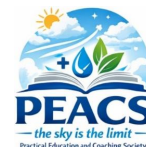
【目次】

1. 人を動かす 3 原則
 2. 人に好かれる 6 原則
 3. 人を説得する 12 原則
 4. 人を変える 9 原則
- 付. 幸福な家庭をつくる七原則

社長のコメント

南北戦争ゲティスバーグの戦い（1863 年）の後、敵将リーを追撃する好機を逃した部下のミード将軍に宛てて、リンカーン大統領が痛烈な叱責の手紙を書きながら、ついに投函しなかった逸話などが収められている（手紙は死後、書類の中から発見された）。若き日のリンカーンには、新聞紙上で相手を風刺したことが決闘寸前の事態を招いた苦い経験（1842 年）があり、以来、人を面と向かって非難することを生涯避けたと伝えられる。

正しいと思ったことを、そのままぶつければ伝わるというものではない。今日の対話は、すべてこの一冊に通じている。



6. 事務局よりご連絡

7 月より PEACS 事務局体制が変更されました(カッコ内は現職)。今後とも皆様からのご支援の程をよろしくお願い申し上げます。

▽広報担当プロデューサー(新設) 土屋祐也

▽事務局長 立石亘(副事務局長)

▽副事務局長 鈴木康之(副事務局長)

7. 今後の活動予定

●9 月 3 日(木) PEACS 1 周年記念 クロスオーバー講演会

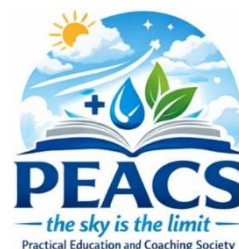
●9 月 7 日(月) 第 4 回グループコーチング(コアメンバー対象) (毎月第 1 月曜に開催)

●現在、PEACS 事務局では、ホームページ開設に向けて準備中です。会員の皆様の交流の場としてご利用いただけたら幸いです！

私たちの合言葉「対話という従来からあるツールを使い、コーチングで業界を変える」

対話を変えることが個人も、組織も変わる、
この実践を通じて、あらゆる業界に一石を投じ、
波紋を拡げ、小波を起こし続ける。

※本研究会は、安心して語り、試し、学び合う場です。
立場や会社の違いを越え、互いの実践からの学びを大切にします。



※会員の皆様の活動も、会報にて掲載させていただきます。ぜひ情報をお寄せください！

発行:2026 年 8 月

発行人:辻剛

写真・資料提供:西條弘晃